

平成31年度版 改善計画

学校名：山梨県立日川高等学校

No.	項目	現状と課題	H32年度に目指すべき状態	①H31年度に実施する内容 ②H32年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	<p>【現状】会議の参加者の見直し、会議のない日を作る等の工夫は継続的に行われている。また、職員会議は資料を事前配布し、説明時間を減らしている。</p> <p>【課題】会議の回数や時間を引き続き縮減していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1週間に1度は会議のない日を作るべく作る。 ・会議の開始時刻を徹底し、所要時間を設定することで定刻終了を目指す。 	<p>①個々の会議を「つなぐ」「見つける」という視点で精査し、検討事項が少ない会議等については、他会議と同日開催したり、構成メンバーも必要に応じて減らしたりして、会議のスリム化を進める。また、資料の事前配付につとめ、会議時間の短縮や定刻で終了する会議を増やしていく。</p> <p>②会議によっては共有フォルダやClassiを利用して資料の閲覧・配布で済ます等、ICTの活用を検討する。</p>	
2	学校行事の負担軽減	<p>【現状】平成31年度は、土・日の行事を減らしたが、本校の特徴である同窓会関係行事は昨年同様のかたちで、年間行事予定を策定した。</p> <p>【課題】生徒募集に関する行事は志願者増につながっているが、負担感や多忙感との兼ね合いを考えていく必要がある。また、強歩大会等の伝統的な行事は、生徒への教育効果が大きいいため、見直しにくい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・強歩大会など大きな行事では、引き続きPTAや同窓会の協力を仰ぎながら、効率的な運営を心がける。 ・行事をバランス良く配置すると共に、休息が適切にとれるような行事予定を策定する。 	<p>①個々の行事を「つなぐ」「見つける」という視点で精査し、必要性を検証し、アンケート結果を職員会議等で報告させ、改善に向けた検討を進めていく。</p> <p>②行事予定を作る段階で、なるべく負担感の少ないものにしていく。週休日の行事を削減すると共に、やむを得ず週休日に行事を打つ場合は、代休日を設定する。</p>	
3	校内組織の見直し	<p>【現状】定員減により教員定数が減る中、分掌の統合を進めてきた。平成31年度は委員会が14、分掌は9である。部活動は映画・演劇部が休部となり、運動部が23、文化部が16である。</p> <p>【課題】部活動の副顧問は複数の部を兼任する状態である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会や分掌の整理や構成員の見直し、部活動の精選や顧問配置の工夫等により、職員の数に応じた校内体制を構築する。 	<p>①学校の課題を検討する「企画会議」で、多忙化解消に向け、積極的に議論していく。</p> <p>②委員会や分掌等の再編整備を引き続き検討していく。とくに部活動については、部員数の推移等を見ながら、将来的に存続が難しい部を想定しておく。</p>	
4	業務の効率化	<p>【現状】Classiの活用が進み、生徒連絡やアンケート集計などが効率的に進められるようになりつつある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間の協働性を高めると共に、Classi等のICTを積極活用することで作業効率を上げ、平時は遅くも8時を目処 	<p>①会議資料や提出文書等のペーパーレス化を進め、印刷・配布・回収等に掛かる労力を削減する。また、面談等を通じ職員の勤務状況や要望を管理職が把握する。</p> <p>②教材やクラス経営のノウハウ等の公開により、職員の協働性を高</p>	

		【課題】熱心な教員が多く、平日は8時以降まで残る職員もいる。また、土曜サプリーや模試の監督など、休日出勤して業務に当たる先生方もいる。	に最終退校できるようにする。	めると共に、デジタル教材の積極活用を進め、教材作成等に掛かる時間を短縮する。	
5	部活動の負担軽減	【現状】学校全体に部活を頑張る空気があるため、顧問の指導にも力が入る。一方で、「きずなの日」は部活動を休む日として定着している。 【課題】平日の最終下校時刻19時がまだ不徹底である。	・「きずなの日」の部休を継続すると共に、オフシーズンの土日の片方休みを実現していく。 ・平日2時間練習を実現すべく、短時間で効率的な練習を心がけ生徒及び顧問の時間を確保する。	①「きずなの日」だけでなく毎週月曜日は部活動を休むこととしながら、主顧問と副顧問、外部指導者の連携により、休日練習の指導監督業務のシェアを図る。 ②本校の合い言葉である4時間勉強2時間練習を目標に、活動にメリハリを付け、試合期以外は6時半活動終了を心がけ、生徒の最終下校時刻19時を徹底していく。	
6	地域人材の活用	【現状】部活動においては外部指導者として、本校のOBを積極活用している。またSSHの事業についても、積極的に地域の施設や人材を活用している。また、強歩大会では、PTAの積極的な協力が得られている。 【課題】外部指導者やSSH関連事業との連絡調整等には手間を要する。	・保護者や同窓会、地域の人材の力を有効に活用し、職員の負担軽減を図る。	①PTAや同窓会との連携を引き続き密にする中で、協力が得られやすい雰囲気を作っていく。 ②外部指導者やSSH関連事業との連絡調整が部顧問や係分掌の過重負担にならないよう、管理職が関わっていく。	
7	ICTの積極活用	【現状】家庭学習時間の管理はClassiの活用により省力化が進みつつある。 【課題】大学入試改革に伴う生徒個人の学びの記録等を蓄積していく必要がある。	・ICTを積極的に活用し、生徒個々のデータを担任がまとめる作業をできる限り削減する。 ・生徒のポートフォリオ蓄積を進め、将来の出願に係る職員の事務作業の軽減のための準備を進める。	①全学年がClassiを利用できる利点を活かし、家庭学習時間の報告や学びの記録、その集計をWEB上で行うことで、担任が一覧にまとめる手間を省く。 ②将来の校内LANの整備を念頭に、まずは教員がICTを使いこなせるように研修を積む。	
8	(学校独自の項目)				

※達成状況：次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村（組合）教育委員会へ提出する。

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった

※様式は、必要な項目が含まれていれば、適宜、変更して使用して差し支えないこと。